

おじいちゃんは名人だ

新見市立神代小学校

三年 西川 陸 翔

ぼくは夏が大すきだ。なぜなら、夏になると、川遊びや虫取りができるからだ。暑いきせつになつてくると、おじいちゃんがなにやら台所でゴソゴソし始める。

「よし、今日からしかけをはじめようか。」

バナナとハチミツ、それからおじいちゃんの大すきなお酒をまぜて「おじいちゃんとかせい虫のエサ」の完成だ。夕方になると、おじいちゃんが動きだす。外の大きな電とうをつけ、白いぬのを広げ、切ったペットボトルにおじいちゃんとかせい虫のエサを入れ、しかけを用意する。辺りが暗くなり、おじいちゃんと弟と三人でしかけの場所に向かうと、大きなミヤマクワガタと小さなノコギリクワガタがいた。ぼくたちは大こうふんし、大よろこびでクワガタをつかまえた。

次のお休みの日、おじいちゃんと弟と川へ魚をとりに行つた。おじいちゃんはゴーグルと魚をつくモリという道具をもち、じゅんびはばんたん。

「魚がにげるから、大きな声をだしたらいいけんよ。」
と言いながら、石の間に手を入れたり、顔をつけて魚をさ

がしたりしていた。

「大きなヤマメがおるでえ。」

と、おじいちゃんは石のすき間にかくれていたヤマメをつかんで、大きなヤマメをとつてくれた。小さなヤマメ二ひきも、モリでついてとつてくれた。ぼくたちは、

「じいじ、すごい！」

と、大よろこびした。

家に帰つて、おばあちゃんが、つかまえてきたヤマメをしておやきにしてくれた。ぼくと弟と妹でバクバク食べて、すぐになくなつてしまった。とれたてのヤマメは、とつてもおいしかった。少しほねに身がのこっているのを見て、おじいちゃんは

「さつきまで生きていたいのちだから、きれいに食べてあげないとかわいそうだよ。」

と、ぼくたちにいのちの大切さも教えてくれた。

おじいちゃんといると楽しいことがいっぱいワクワクする。いろんなことを教えてくれて、いっしょに遊んでくれるおじいちゃん。ぼくもおじいちゃんみたいに、虫や魚とり名人になりたい。おじいちゃん、いつもありがとう。